

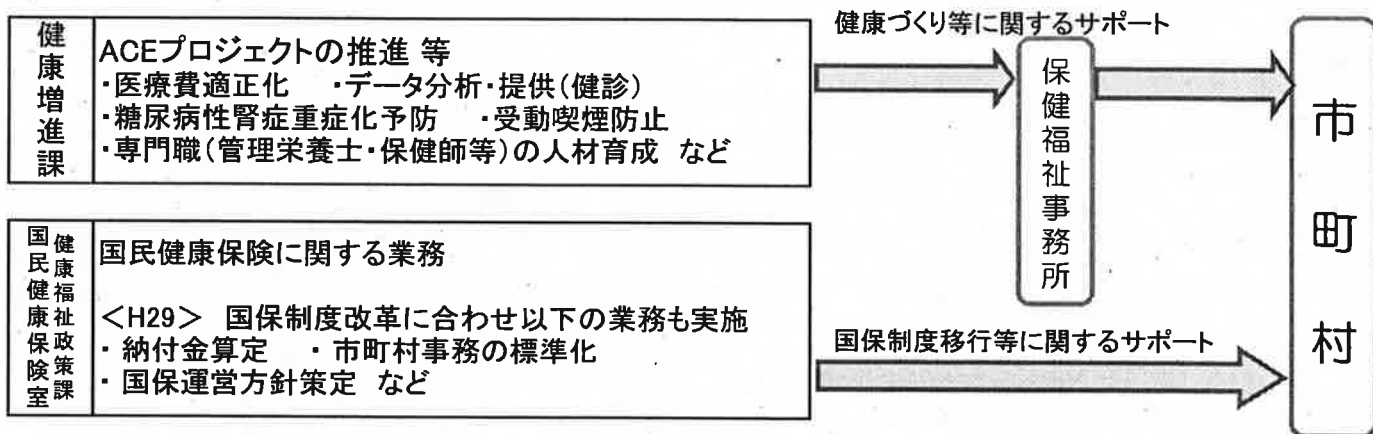
○ 概 要

国保制度改革を機会として、保険者努力支援制度を活用した市町村の健康増進に関する取組みへの支援、国保データを活用したデータヘルスの推進等、健康増進に関する取組みをステップアップさせるため、国民健康保険室を健康増進課に付置
 (データヘルスや保険者努力支援制度など、両課室に関連する業務を一体的に担う職員を配置し、効果的に推進)

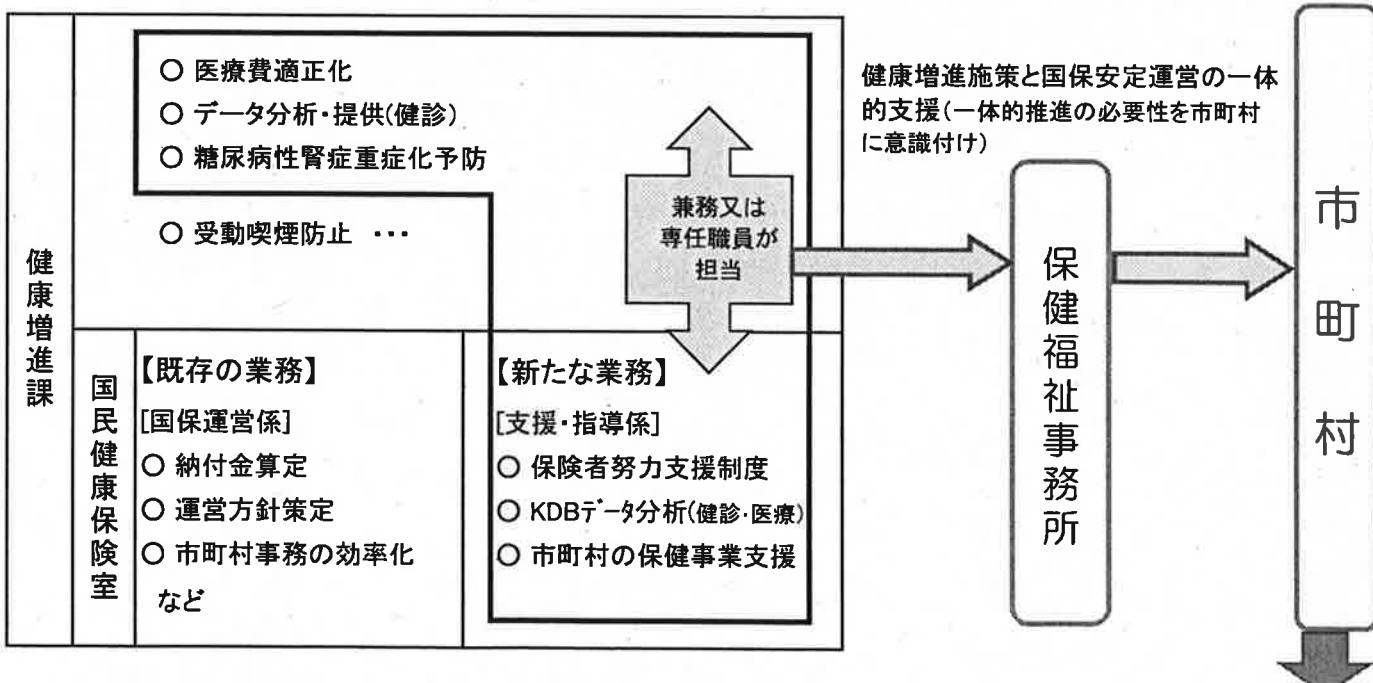
- * 健康増進に係る取組みが保険者努力支援制度のインセンティブ項目となることから、この仕組みを活用して、市町村保健事業の推進を支援
- * 国保データ等の活用・分析により、市町村の健康課題を見える化し、保健・栄養指導や保健事業の推進・検証等について、市町村と一体的に取り組む。
- * 市町村国保に対する助言について、健康増進課の保健師・管理栄養士等も関与

○市町村が取り組む健康増進等に対する支援について

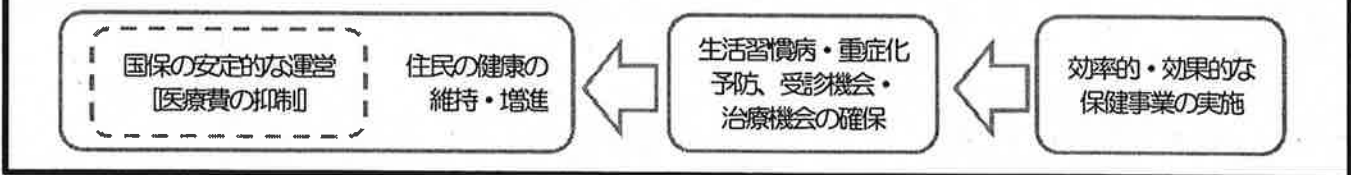
【現 行】



【再 編 後】 H30国保制度改革(都道府県も保険者)を機会とした取組



健康増進と国保安定運営に向けたサイクルの実現



中華民國八十二年一月一日

圖 1



圖 2 農產運銷管理辦法之實施程序

中華民國八十二年一月一日



圖 3 農產運銷管理辦法之實施程序 (續)



市町村と連携した健康づくりの推進について

健康増進課

30年度当初予算額	20,311千円
-----------	----------

1 趣旨

平成27年都道府県別平均寿命で男性が2位に後退し、生活習慣病のリスクや脳血管疾患による死亡率の高さなどの課題が明らかとなりました。

これらの課題を克服し、健康長寿県としての地位を維持できるよう、国民健康保険の広域化により県も保険者となることを契機に、

- ① 県民の健康課題を「見える化」し、保険者（市町村、協会けんぽ等）や企業経営者と共有して、保険者が行う保健事業や企業の健康経営を支援するほか、
- ② 県民の生活習慣の改善に向け、ターゲットを明確にした上で、運動、健診、食に係る徹底的な情報発信と健康づくりへの行動変容を促す取組を強化することなどにより、

信州ACE（エース）プロジェクトをより一層強力に推進します。

2 事業内容

(1) 「見える化」を通じた学び（気づき）による健康づくり

「見える化」による健康課題の共有	主な取組	内 容
	① 健康課題の見える化と共有	○国民健康保険の広域化を踏まえ、保険者として、医療費や健診データ等を市町村別に分析し、地域の健康状態を「見える化」 ○地域の健康課題を、保健福祉事務所から市町村に提供し、共有 【参考資料1】
	② 市町村のデータヘルス支援	○市町村が行う保健事業の効果的、効率的な実施を促進 ▶県支援チームが、市町村のデータ分析、事業評価を支援 ▶保健福祉事務所が、市町村の実施するデータヘルスを支援 (4,891)
4,891千円	③ 健康経営の必要性を意識付け	○企業の業種別、従業員規模別などのデータ分析により、働き盛り世代の健康状態を「見える化」 ○経済団体・業界団体へ提供し、課題を共有 【参考資料2】

市町村事業の支援	主な取組	内 容
	○運動の取組を支援する環境整備【A】	○協会けんぽが働き盛り世代を対象に実施する参加型ウォーキングの実施に合わせた、健康づくりイベントの実施 ○市町村や事業所の運動指導者を対象とした研修会の開催 ○運動の実践方法を助言・指導するアドバイザーの派遣(2,021)
2,749千円	④ ライフステージ別課題に応じた生活習慣改善実践【E】	○「若者・子育て世代の食生活への意識の低さ」や「65歳以上女性の低栄養傾向」など、ライフステージ別の健康課題を地域ごとに取り上げ、健康に配慮した食生活や適切な栄養摂取の取組を実践(728)

【食育に関心のある県民の割合】

年齢	男性 (%)	女性 (%)
15-19歳	52.3	32.1
20-29歳	18.1	48.5
30-39歳	32.6	57.2
40-49歳	35.1	67.5
50-59歳	34.0	71.8
60-69歳	41.1	66.5
70歳以上	43.6	60.6
15歳以上	34.7	60.6

【低栄養傾向 (BMI : 20 以下) の高齢者の割合】

性別	H22 (%)	H25 (%)	H28 (%)
男性 (65歳以上)	13.9	13.5	10.3
女性 (65歳以上)	16.5	19.4	23.6

(2) 学びの実践（ターゲット毎の課題解決）による健康づくり

健康経営に対する支援	主な取組	内 容
	⑨ 働き盛り世代の健康づくり支援 【A】	○協会けんぽ等の保険者と協働で、スマホアプリを活用した働き盛り世代対象の参加型ウォーキング『事業所対抗“学んで”“歩く”90日!』を全県展開 ○(再掲) 働き盛り世代の家族を対象に、市町村による運動習慣定着の取組を促進
	○保険者と連携した受診しやすい環境づくり 【C】	○「市町村国保×協会けんぽ」等、保険者相互乗り入れ健診の拡大実施による受診機会の増加 ○統一広報ツールを活用した各保険者による受診勧奨の強化
	⑩ 健康に配慮した食環境整備 【E】	○健康に配慮し、かつ人気のある社食メニューの開発を支援するセミナーの開催 (659) 【H29 社員食堂健康づくり応援メニューコンテスト最優秀賞 (VAIO(株) 食堂)】
⑩ 信州ACE(エース)プロジェクト普及・発信	○効果的な健康づくりに取り組んだ企業を「ACEフォーラム」(県民大会)で表彰し、県民に「見える化」して発信 (1,431) 【H29 ACEフォーラム (11.2 開催)】	
2,090千円		



ターゲットごとに共創する取組	主な取組	内 容
	[ターゲット:若者] ⑩ 大学生による学びの場の創出 【E】	○管理栄養士を目指す県内大学生が、地域の食と健康課題について学ぶため、栄養士、食生活改善推進員と交流する場を創出 (404) ○食生活改善推進員の実践活動を強化する研修会の実施(940)
	[ターゲット:若者] ⑨ 「野菜を食べよう!」キャンペーン 【E】	○生活習慣病予防のための野菜摂取の重要性について集中的な啓発を行うとともに、行動変容につなげるための具体的な取組方法を発信 (471) 【野菜たっぷり適塩キャンペーン】
	[ターゲット:若者・働き盛り世代] ○県民参加型キャンペーンの実施 【A・E】	○SNSを活用して、健康づくりの具体的な取組手法を普及、発信 ○県民が、自らが行った健康づくりの取組をSNSに投稿するキャンペーンの実施 (1,498)
	[ターゲット:若者・働き盛り世代] ○減塩・野菜摂取の働きかけ 【E】	○食生活改善推進員が学校、企業を訪問し、減塩、野菜摂取を普及 【食生活改善推進員による企業訪問での調理実習】
	[ターゲット:若者・働き盛り世代] ⑩ 健康に配慮した食環境整備 【E】	○健康に配慮したメニューや弁当を選択できる環境整備の促進 ○県内大学生がSNSを活用して健康に配慮した食生活について情報発信
[ターゲット:働き盛り世代] ⑨ 働き盛り世代の健康づくり支援 【A】	○(再掲) 協会けんぽ等の保険者と協働で、スマホアプリを活用した働き盛り世代対象の参加型ウォーキング『事業所対抗“学んで”“歩く”90日!』を全県展開	



ターゲットごとに共創する取組	主な取組	内 容
	[ターゲット：高齢者] ①運動習慣の定着促進【A】	○シニア大学における、講座開始前のご当地体操の実施、ポールウォーキング講座、歩行ケア講座の開催 【健康増進課】
	[ターゲット：高齢者] ※フレイル対策	
	①人材育成プログラムの開発・実施	○「長野県版フレイル予防人材育成研修プログラム」を開発し、医療・介護の専門職を対象に研修を実施 (921) 【健康増進課】
	②歯科保健に携わる職種への研修	○歯科保健に携わる職種を対象としたオーラルフレイル予防についての普及活動を実施 (162) 【保健疾病対策課】
③フレイル予防の推進と評価	○フレイル予防等に係る市町村の取組成果を県下一律の基準で評価するため、モデル市町村を選定して指標を検討 (250) 【介護支援課】	
④介護予防等推進研修	○フレイル予防等に関する知識や技術を習得し、高齢者の自立支援に資するための研修を実施 (150) 【介護支援課】	

※フレイル：加齢により、筋力や認知機能が低下し、生活機能障害・要介護状態の危険性が高まった状態

4,796千円

全世代	主な取組	内 容
	①健診受診の必要性を意図付け【C】	○薬局、スーパー、コンビニ等、県民が身近な場所で自ら血圧のチェックを行うことができる環境整備 (5,000) (患者のための薬局ビジョン推進事業)【薬事管理課】
②無関心層に対する意識の喚起	○県民の健康意識を喚起するとともに、健康づくりの取組とその継続を下支えするため、市町村や保険者とともに健康ポイント制度を研究し、モデル事業を試行 (785)	

年度	長野県 (%)	全国 (%)
H23	48	44
H24	50	46
H25	52	48
H26	54	49
H27	56	50

5,785千円

(3) 多様な主体の“自治力”をつなげ・共創する体制づくり

多様な主体と共創する体制づくり	主な取組	内 容
	①連携推進体制の構築	○市町村、関係団体、健康関連企業など、意欲ある関係者と連携するプラットフォームを構築し、具体的な対策を推進
②長野県自治力による健康づくり推進会議(仮称)の設置	○国保制度改革を踏まえ、県と市町村が健康課題を共有し、一体的に取り組む体制の構築	

0千円

<p>1. 某公司生产的产品，其质量与生产时间成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 100$。当 $x = 20$ 时，$y = 100 \times 20 = 2000$。所以生产20小时时的产品质量为2000件。</p>	<p>第一组：100分</p>
<p>2. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的平方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^2$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 10$。当 $x = 20$ 时，$y = 10 \times 20^2 = 4000$。所以生产20小时时的产品质量为4000件。</p>	
<p>3. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的立方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^3$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 1$。当 $x = 20$ 时，$y = 1 \times 20^3 = 8000$。所以生产20小时时的产品质量为8000件。</p>	
<p>4. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的四次方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^4$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 0.01$。当 $x = 20$ 时，$y = 0.01 \times 20^4 = 16000$。所以生产20小时时的产品质量为16000件。</p>	
<p>5. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的五次方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^5$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 0.001$。当 $x = 20$ 时，$y = 0.001 \times 20^5 = 32000$。所以生产20小时时的产品质量为32000件。</p>	

 <p>6. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的平方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^2$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 10$。当 $x = 20$ 时，$y = 10 \times 20^2 = 4000$。所以生产20小时时的产品质量为4000件。</p>	<p>第二组：100分</p>
<p>7. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的立方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^3$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 1$。当 $x = 20$ 时，$y = 1 \times 20^3 = 8000$。所以生产20小时时的产品质量为8000件。</p>	

<p>8. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的四次方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^4$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 0.01$。当 $x = 20$ 时，$y = 0.01 \times 20^4 = 16000$。所以生产20小时时的产品质量为16000件。</p>	<p>第三组：100分</p>
<p>9. 某公司生产的产品，其质量与生产时间的五次方成正比。当生产时间为10小时时，产品质量为1000件。求生产20小时时的产品质量。</p> <p>(10分)</p>	<p>解：设生产时间为 x 小时，产品质量为 y 件。根据题意，有 $y = kx^5$。当 $x = 10$ 时，$y = 1000$，所以 $k = 0.001$。当 $x = 20$ 时，$y = 0.001 \times 20^5 = 32000$。所以生产20小时时的产品质量为32000件。</p>	



市町村別健診データの「見える化」の例

～平成29年度第2回長野県健康づくり推進県民会議(H30.1.18開催)資料より～

目次

	(P)
対象者・データの読み方	1
1 メタボリックシンドローム	2
2 BMI	3
3 血圧	4
4 血糖	5

■ 対象者

- 県内77市町村国民健康保険（以下、市町村国保）、全国健康保険協会長野支部（以下、協会けんぽ）の平成26年度特定健診受診者

市町村国保:165,097人 (44.2%) + 協会けんぽ:125,165人 (57.0%) ➡ 計 290,262人

※ () 内は、40-74歳被保険者（健診対象者）に占める受診者の割合を示しています。

- 今回の結果は、特定健診を受診された方の結果に基づくため、受診率が低い場合には集計対象に偏りのある可能性があり、長野県あるいは市町村の全体を必ずしも反映しているものでないことに留意してください。

■ データの読み方 <例>

● 「標準化該当比」の計算
受診者の性別・年齢構成が市町村国保と協会けんぽで異なるのを補正する目的で、標準化死亡比（SMR）の計算方法に準じて算出

- 男性のメタボリックシンドローム該当者は、県全体と比べると、
○○地域で多く、□□地域で少ない傾向がみられた。

有意に低い
□□市 (90.0)

県全体(100)に比べて□□市はメタボリックシンドローム該当者の割合が0.90倍（低い）と解釈できます。

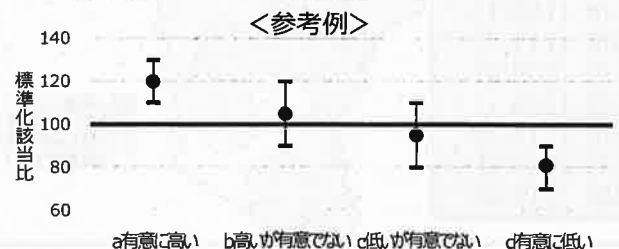
有意に高い
○○市 (120.0)

県全体(100)に比べて○○市はメタボリックシンドローム該当者の割合が1.20倍（高い）と解釈できます。

() 内の数値は標準化該当比を表記

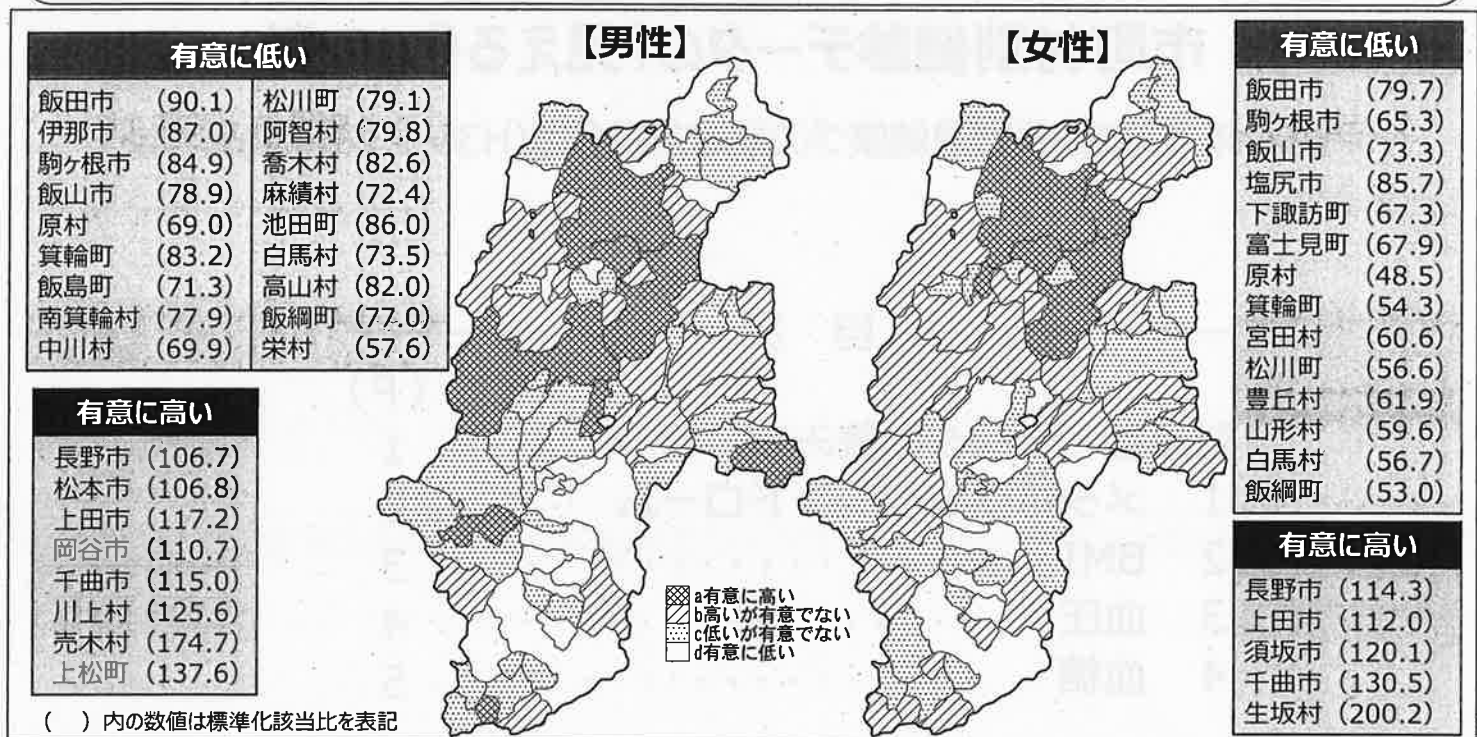
- 市町村の標準化該当比と県（100）との差が偶然であるか否かを示すために、95%の信頼区間を算出し、4区分の判定を行っています。

判定区分	地図化の区分表示
a.有意に高い	網掛け (網掛け)
b.高いが有意ではない	斜線柄 (斜線柄)
c.低い有意ではない	ドット柄 (ドット柄)
d.有意に低い	白 (白)



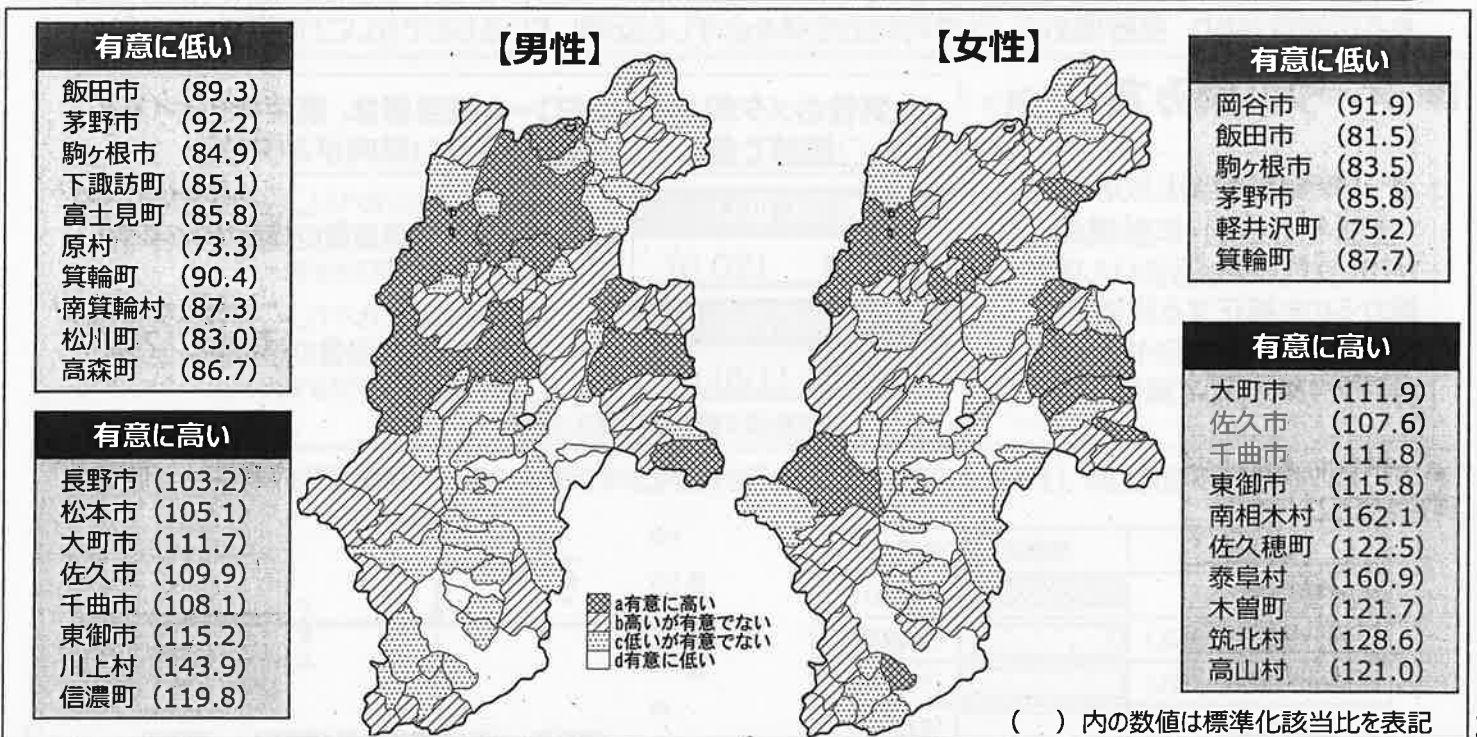
1 メタボリックシンドローム

- 男性のメタボリックシンドローム該当者は、県全体と比べると、上田・松本・長野地域で多く、伊那・飯田・北信地域で少ない傾向がみられた。
- 女性のメタボリックシンドローム該当者は、県全体と比べると、上田・長野地域で多く、諏訪・伊那・飯田地域で少ない傾向がみられた。



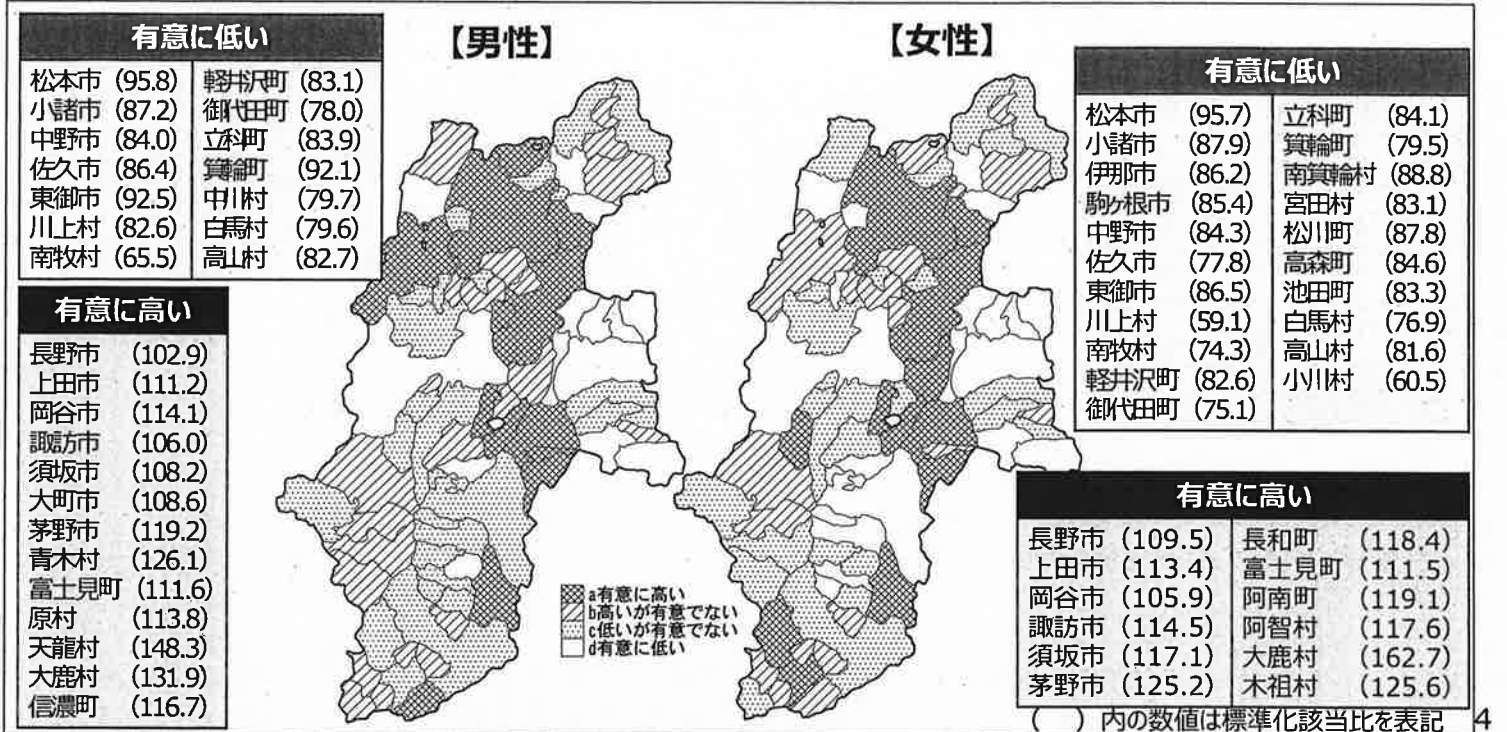
2 BMI (25kg/m²以上)

- 男性の肥満は、県全体と比べると、佐久・松本・大町・長野地域で多く、諏訪・伊那・飯田地域で少ない傾向がみられた。
- 女性の肥満は、県全体と比べると、佐久地域・長野市周辺で多く、諏訪・伊那・飯田地域で少ない傾向がみられた。



3 血圧 (収縮期血圧 \geq 130 mmHg)

- 男性の収縮期血圧が高い者は、県全体と比べると、上田・諏訪・長野地域で多く、佐久・松本地域で少ない傾向がみられた。
- 女性の収縮期血圧が高い者は、県全体と比べると、上田・諏訪・長野地域で多く、佐久・伊那・松本地域で少ない傾向がみられた。



4 血糖 (空腹時100 mg/dℓ以上)

- 男性の血糖が高い者は、県全体と比べると、佐久・飯田・松本地域で多く、諏訪・長野地域で少ない傾向がみられた。
- 女性の血糖が高い者は、県全体と比べると、佐久・飯田・松本・北信地域で多く、諏訪・長野地域で少ない傾向がみられた。

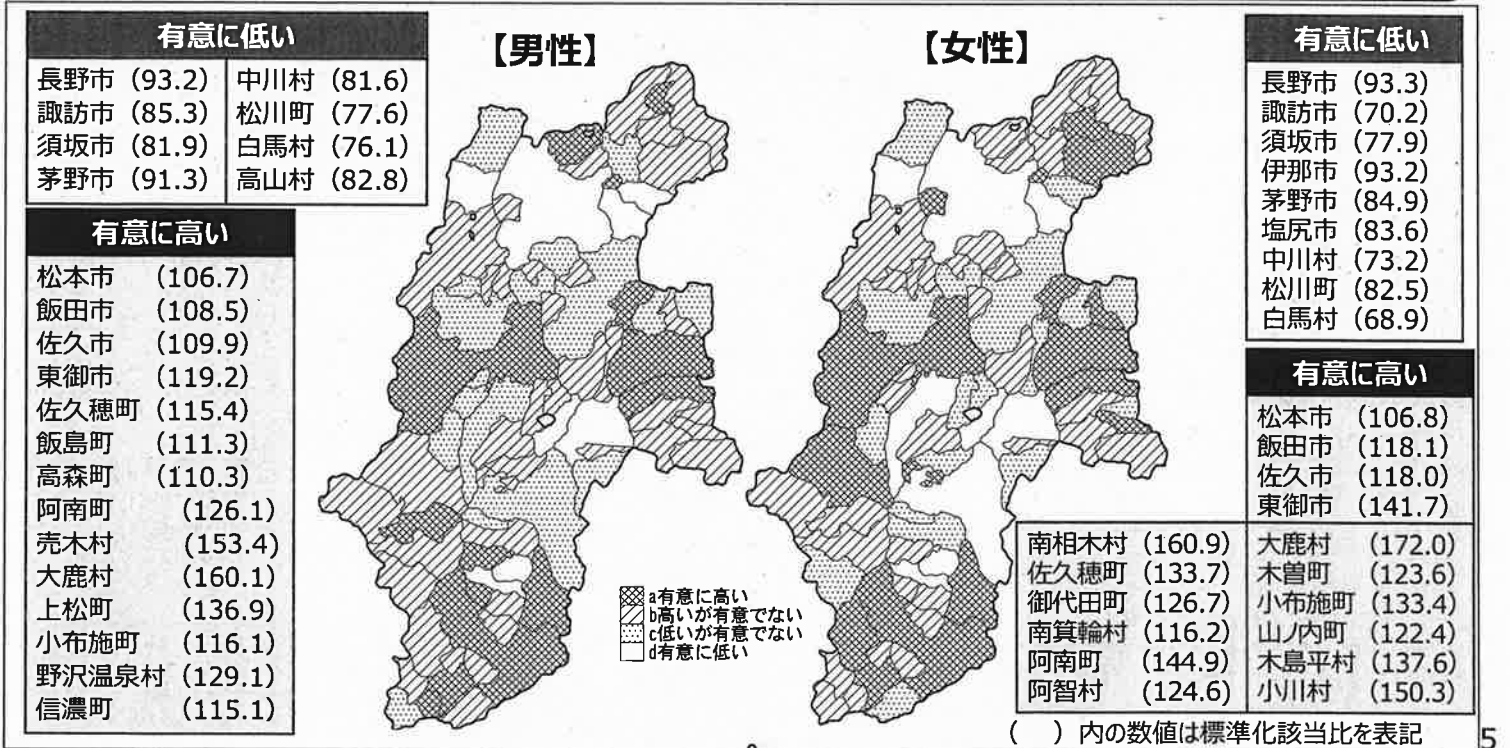


Figure 3 (continued) (continued)

Figure 3 (continued) (continued)

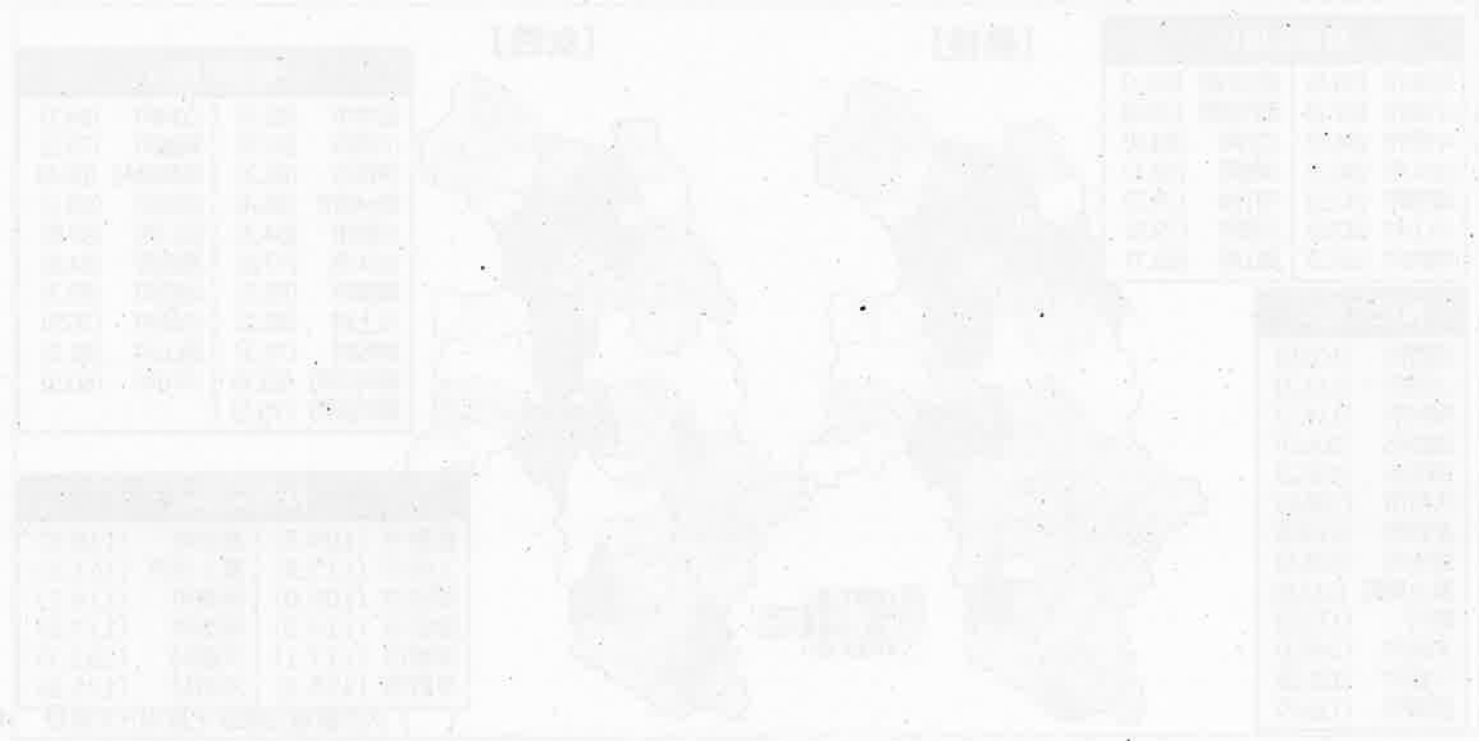


Figure 4 (continued) (continued)

Figure 4 (continued) (continued)



健診結果から見える企業の健康度 ～全国健康保険協会長野支部資料～

1. 協会けんぽ長野支部の基礎データ (28年度末)

- 事業所数 33,538件 (27年度末比+3.9%)
- 被保険者数 380,192名 (+2.2%)
 - 35歳以上被保険者数 285,347名 (+3.1%)
 - 健診受診者(健診データ)数 160,569名分 (+5.4%)

【規模別事業所割合】 (%)

4人以下	61	50～99人	2
5～9人	18	100～299人	2
10～19人	10	300～499人	0
20～29人	4	500～999人	0
30～49人	3	1000人以上	0

【業種別事業所割合】 (%)

建設業	19	運輸業、郵便業	3
製造業	17	農林水産業	2
卸売・小売業	17	情報通信業	2
サービス業	9	教育・学習支援業	1
医療・福祉	7	公務	1
飲食店・宿泊業	6	金融・保険業	1
学術研究、専門技術サービス業	5	電気・ガス・熱供給・水道	1
不動産業	5	複合サービス業	1
生活関連サービス業、娯楽業	5	鉱業・採石業、砂利採取業	0

2. 健診結果からみた業種別の健康度合 —平成28年度健診結果によるリスク保有割合—

特定保健指導項目			リスク保有割合(%)	
健診項目	リスク基準	検査でわかることなど	長野支部	高い業種
肥満	BMI 25以上	肥満かどうか分かる。 BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)	25.9	建設 (32.1) 運輸・郵便 (31.7)
血圧	収縮期血圧 (最高血圧) 130mmHg以上	心臓が収縮または拡張した時に血管壁に当たる血流の強さを表す。循環器(心臓・血管)の異常のほか腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手がかりになる。	31.7	鉱業・採石・砂利採取 (38.9) 運輸・郵便 (38.8)
	拡張期血圧 (最低血圧) 85mmHg以上		23.4	運輸・郵便 (28.9) 建設 (27.9)
脂質	中性脂肪 150mg/dl以上	糖分(主食・アルコール・甘いもの)の取りすぎや運動不足で増え、悪玉のLDLコレステロールを増やし、動脈硬化を進めることにつながる。	20.1	鉱業・採石・砂利採取 (28.9) 建設 (26.9)
	HDLコレステロール 40mg/dl未滿	血管にたまった悪玉のLDLコレステロールを肝臓に持ち帰る働きがあるので、善玉コレステロールといわれている。	4.9	運輸・郵便 (7.8) 情報通信 (7.8)
	LDLコレステロール 120mg/dl以上	血管の壁に蓄積し動脈硬化を起こし脳梗塞や心臓病の原因になるので、悪玉コレステロールといわれている。	51.4	電気・ガス・熱供給・水道 (54.7) 鉱業・採石・砂利採取 (54.3)
血糖	空腹時血糖 100mg/dl以上	高値は糖尿病の疑いがある。食事の影響が強いため空腹時に検査をする。	33.7	鉱業・採石・砂利採取 (43.4) 運輸・郵便 (42.1)
	HbA1c 5.6%以上	過去1～2か月の血糖の平均値がわかる。高値は糖尿病の疑いがある。	50.3	不動産・物品賃貸 (56.6) 農林水産 (56.4)

3. 業種別のメタボ率

